

第 38 回 みんなのくらしと放射線展実施報告

- ・主催 「みんなのくらしと放射線」知識普及実行委員会
構成団体：大阪府立大学（事務局）、（一社）大阪ニュークリアサイエンス協会、
（国研）日本原子力研究開発機構、（一財）電子科学研究所、（一財）日本原子力文化財団、
（公社）大阪府診療放射線技師会、（公社）日本アイソトープ協会、
（一社）日本原子力学会関西支部、関西原子力懇談会
- ・現在 Web で開催中 (<https://housyasen-fukyu.com/event/>)
- ・実施内容 従来の親子・一般向けコンテンツに加え、放射線研究・教育のさらなる充実をめざして放射線に関するより深い知識を発信。

コラム 日本人の由来

（株）原子力安全システム研究所 顧問 岸田 哲二

人類の歴史を遡ると700万年前に直立二足歩行の猿人150万年前に原人50万年前に旧人が現れた。そして約20万年前に我々の先祖であるホモサピエンスがアフリカ大陸で住むようになった。約10万年前から図1に示す様な経路で長年に亘りホモサピエンスが大移動し拡散したという事が定説となっている。この図から我々の先祖は3~4万年に北は樺太方面から南は沖縄方面から日本列島にやって来て住み着いたと言える。旧石器時代(3万5000年以前)に日本列島に人が住み着いていたことは1946年の岩宿遺跡の発掘を契機にあちこちの遺跡での多数の石器の発掘で明らかになった。岩宿遺跡は群馬県みどり市にあり、赤城山南東の関東ローム層から黒曜石の打製石器が最初に発見されたことで特筆される。

時が流れ新石器時代になると縄文時代が始まる。石器と土器を比較すると文化や技術のレベルが全く違うことはいままでもない。土器は食料や水などの貯蔵や煮炊きに使われる。

青森県大平山元遺跡では16500年前の土器が発掘されている。横浜市花見山遺跡では15000年前の土器が出土している。出土している世界最古の土器は9000年前のものである事から日本では世界に先駆けて高度な土器文明が栄えていた。

佐賀県唐津市の菜畑遺跡では3000年前に水田稲作が行われていた。水田の遺構が確認され水路、堤、取排水口、矢板を用いた畦畔が発掘されている。炭化米も250粒ほど出土しそのうち100粒以上がジャボニカ種である。また各地の水田跡地から多数の縄文土器や石棒などが発見されているが渡来人系の道具は全く見つかっていない。日本列島の平地は海、山、川に囲まれていることが多く食料として魚、貝、藻などの種類も豊富で簡単に入手でき、鹿、イノシシなどを狩猟でき、木の実、キノコや野菜類も容易に採れる。縄文人は多種豊富な食料を土器で煮炊きし、世界のどの地域にも先駆けて贅沢な食事をしており、世界最先端の高度な土器文明を享受していた。また当時の米の収



量倍率は20で小麦の5倍に比べて格段に良く安定した生活が維持できたと考えられる。

次に言語学や生物学の観点からの事実を紹介する。

1. アルタイ語系のツングース語と日本語は語順、助動詞、助詞など文法上の共通点が多い。ツングース語には接頭語は全く見られない。また日本語は語彙が豊かで接辞法がしばしば使われる点もツングース語と異なる。
2. ミクロネシア人やポリネシア人が使用するオーストロネシア語では語彙や接辞法などで日本語との共通点が異様に多い。
3. 因みに日本語と朝鮮語は完全に別系統でいわゆる渡来人の影響は見られない。
4. 成人T細胞白血病ウイルス(ATLウイルス)は幼少時に母乳を介して母親から感染する。沖縄、鹿児島、宮崎、長崎各県のキャリア率は約5%で世界的にみて高い。北海道を含め日本全国にキャリアは存在している。ところがどれだけ調べても朝鮮半島や大陸の人からはATLウイルスが発見されない。一方ツングース系やオーストロネシア語族の人にはキャリアは多い。
5. 分子人類学の研究成果として明らかになったことであるが、日本人男性の遺伝子(y染色体遺伝子)が韓国人や中国人のものと全く異なる。
6. 米国人学者サミュエル・ハンチントン著書“文明の衝突”のさわりを紹介する。世界八大文明の1つに日本文明が挙げられている。日本文明こそ独特で日本一国で成り立った文明である。他の文明は国では一国では成り得なく広範な地域社会の集合した文明になっていて人種も国も多岐にわたっている。

以上挙げた諸点から日本人は列島の北と南から来て住み着いた人が石器や土器を造り田畑を耕し日本語を編み出して独自の文化を創造し発展してきたものと考えられる。

65年以上も前になるが学校の歴史で教えられたのは“縄文時代は文化も文明もない野蛮な時代だった。BC 300年ごろに渡来人から稲作を教えもらい人々が定住し始め発展してきた。“という事だった。今現在も変わらず間違った古代史を教えているという大問題をかかえている。

炭素-14による年代測定が正確になった事、考古学上の新しい発掘、発見が続出している事、言語学や生物学等の新しい知見が続出している事を歴史学者は前向きに採り入れて修正する必要があると考えます。

終わりにあたりこの拙文は東北大学名誉教授田中英道先生のNEW HISTORY をベースに纏めたものである。先生に深甚なる感謝を捧げます。

